

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572110104	
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会	
事業所名	グループホームたしる(ユニットたけのこ)	
所在地	秋田県大館市岩瀬上上岩瀬上野35番地	
自己評価作成日	令和元年12月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	令和2年1月17日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年度の事業計画は①家庭的な雰囲気の中で、可能な限りその有する能力に応じ自立した生活を営み、利用者の声や意見が反映されるよう創意工夫し認知症ケアの充実を図る。②年8回の広報誌「かわら版」の発行・家族・ボランティア交流、保育園児との交流を通じ、地域・家族に開かれた事業所を目指す。③「運営推進委員会」の設置により、家族・地域・行政等の委員の要望・意見・情報交換等により、事業所の更なる良好・健全な運営を図る。④防災計画を基に、夜間体制の確保、消防避難訓練等を実施し、長慶荘本体と連携し利用者の安全確保に万全を尽くす。⑤病気の早期発見、早期対応に努めて健康的な生活の継続を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大自然の中に位置し、近所にある保育園とはいつでも交流ができる環境にある。家族には毎月の手紙で現状をお伝えするとともに、面会時にも家族との対話を欠かさないようにしている。9月の敬老会(家族交流会)では普段の様子を画像で見てもらい、欲しい方にはDVDに編集して渡す等、日頃から事業所と家族とのやり取りができています。若い職員には、資格取得を奨励し、研修会に参加する機会を設けることで、レベルアップが図れるよう努めている。事業所全体でも介護の質を向上させ、皆で同じ方向に向かって頑張ろうとする姿勢が垣間見える。また、消防団長が近所の人たちを誘い、利用者と同じ人数の方が避難訓練に参加してくれていることから、地域の協力体制やつながりの深さが強く感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室に理念を掲げて、意識して業務に就いている。	理念は事務所に掲げており、申し送り時に確認し合い、家族や地域とのつながりを大切に、笑顔でその人らしく生き生きと生活を送れるようなケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	避難訓練や地域交流会と題した「たんぽ会」に参加して頂いたり、かわら版を届けたり、地域に散歩したりして交流をしている。散歩の際には野菜や花のおすそわけがあったりする。隣接する保育園とも交流している。	夜間想定での避難訓練を年1回行っており、地域の方がたくさん参加している。避難訓練が終わると、地域の方も一緒にたんぽ会を行っている。また、大正琴のサークルの方が毎月、朗読ボランティアも2カ月に1回訪問されている。冬には近所の方が雪かきを行ってくれたり、地域との付き合いが日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の開催、常会長さんや保育園へかわら版を届けホームの様子を伝える。また地域行事へ参加すし、認知症高齢者と触れ合う機会を設ける事で理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見等をホームに持ち帰り実践している。職員が共有する為、職員会議等で報告している。(お正月の刺身提供、避難通路入り口が直ぐに開けられるように工夫等)	会議には常会長、市の職員、知見を有する人、家族、施設関係者等が参加している。避難訓練の際、内から鍵がかかっており、外から開けることが難しい事についてアドバイスを頂く等、活発な意見が出されており、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	発行月にはかわら版を届けている。また、運営推進会議に出席して頂き協力関係を築いている。その際入居申し込み待機者の報告もしている。	市の職員は運営推進会議にも参加しており、情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会に参加したり、3ヶ月に1回ホームで身体拘束会議を行ったりと身体拘束の理解を深めると共に、入居者が落ちついて生活出来るように支援している。玄関のチャイムや離床センサーを使用して事故がおきないように、かつ身体拘束をしないケアをしている。	同法人の学習会に参加し、職員会議で話し合い、理解を深めている。身体拘束適正化検討委員会を設置し、3ヶ月に1回話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	在宅グループ学習会で学ぶ機会がある。職員同士で声を掛け合い、虐待する事のないように務めている。また、言葉使いにも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	在宅グループ学習会で学ぶ機会がある。現在は日常生活自立支援事業を利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には「重要事項説明書」を説明し、同意のもと入所して頂いている。入退所時や料金改正時は本人や家族に説明して理解をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	茶話会や誕生会を行い、入居者から意見を聞いている。ご家族には面会時や年1回の家族交流会で意見を聞いたり、ケアプラン発行時には要望等を聞くようにしている。管理者不在時には職員が聞いたりしている。また、運営推進会議時には意見を聞いて支援に生かす様にしている。	玄関に意見箱を設置しているが、今の所意見が入っていた事は無く、面会時に意見を引き出せるよう努力している。車いすの方の家族から「歩けるなら歩いて欲しい」と要望があり、無理しない程度に努力する等、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には施設長や施設長補佐も参加して、意見交換している。また、毎日の申し送り等では職員の意見を聞いて一緒に考えている。年1回は施設長との面談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	各自行った自己評価をもとに年1回の施設長との面談が行われている。普段の申し送り等でも意見を発言しやすい雰囲気になっており、浴槽内の手すりの設置についての意見が出された際も、反映され安全に入浴ができるようになっていた。休みの回数についても意見が出され、勤務時間の変更を行い、月の休日が1日多くなった。	施設長との面談等、働きやすい環境作りが出来ている。それを生かし、さらに利用者にとってより良いサービスの向上に期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職務遂行能力考課(自己評価)、個人目標管理を行っている。その後施設長との個人面談を行い、職員が向上心を持って働ける環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や学習会に参加して、受講者は研修報告書をまとめ、職員皆が向上出来る様に務めている。資格取得に向けての補助・助成も含め推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームと相談したり、研修会に参加し同じ職種の方と交流をし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人やご家族と面談をして、入居後も安心して生活出来るように、自宅での環境をそのまま継続して安心して生活出来るようにしている。また、使い慣れた食器や布団・タンス等を持ってきて頂いたり、配置を変えない等、入居前の情報を基に不安を軽減する努力をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族の要望を丁寧に聞き、入居してから継続出来るように努力している。また、何かあった場合には電話等で相談をし一緒に検討するようにしている。面会時にも気軽に意見を出して頂くようにしている。			
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	だまっこ作り・おはぎ作り・ミズやタケノコの皮むき等季節や行事食等を教えて頂きながら一緒に作ったりして楽しく生活出来る様にしている。また、洗濯物たたみや食器拭き、掃除等出来る事はして頂いている。家庭的な雰囲気・環境作りも大事にしている。			
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあったときにはご家族へ連絡し、通院したり聞いたりして一緒に支えている。また、毎月の出来事や様子をお便りでご家族に伝えている。			
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた病院・美容院等継続している。面会者がいつでも来られるようにしている。かつての居住地・家を等巡るドライブをしている。また、ご家族との外出も自由にして頂いている。	以前から利用していた美容院等には職員が付き添い支援している。家族と外食等の外出も多い。施設への面会も多く、制限することなく受け入れ、関係継続に努めている。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席は気の合う者同士で座って頂いている。ラジオ体操、風船バレー、口の体操等には職員も中に入り入居者同士が関わり楽しく、また孤立感なく生活出来る様に支援している。			
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設(特養)に移る事が多いので、行事等で行ったときには話しをしたりして繋がりを大切にしている。長期入院になった場合はご家族から相談を受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら本人の思いに寄り添い、またご家族からの思いも聞きながら、出来る限り希望に添えるようにしている。(好きな食べ物や飲み物等)。	レクリエーションの時間でも気分が乗らない人には無理せず休んでもらったり、表情を読み取り、個別に散歩に行ったりと、それぞれの思いに寄り添って支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時には生活様式や趣味・生活歴等を聞いて、入居後も継続出来る様に務めている。また入居後は本人と会話する事によって情報を得て希望に添える様に努力している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康状態をチェックし、本人の思いやリズムに合わせた生活出来る様に支援している。また、朝夕の2回の申し送り等で職員同士共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、職員同士で話し合い介護計画書を作成している。またご家族にはケアプラン発行時に意見を聞いたり協力して頂きながら行っている。	担当の職員がケアチェック表を作成し、計画作成者が家族の意向を確認し、介護計画書を作成している。毎月の職員会議で皆で話し合い完成させている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、それぞれの様子を日誌に入力し申し送りで伝達している。何か変化があった場合には職員間で共有し話しあえる環境を作っている。月の最後には本人の状態をまとめたものをケース記録に入力し、介護計画の見直しに繋げている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム隣の保育園児が遊ぶ様子、散歩に出掛け近所の方と話しをしたり、長慶荘の行事に参加したりと楽しく生活している。また外部からボランティアとして、大正琴サークルや朗読の会を招いて、また避難訓練後には地域の方と一緒にたんぼ会を開き交流している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族へ確認し、特にない方は協力医療機関をかかりつけ医として定期受診や状態変化の際には直ぐに対応出来る様にしている。	通院が可能な場所であればかかりつけ医の継続支援で対応している。基本的に職員が受診に付き添い、家族への通院の報告を行っている。かかりつけの眼科から往診してもらっている利用者もいる。病院ごとに薬局があるが、それぞれの薬局と連携し、薬の情報を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長・施設長補佐・長慶荘の看護師・かかりつけ医の看護師に状態報告し、通院等の指示を仰いでいる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院の医師や看護師・病院の相談室・家族と情報交換や話し合いをし、退院後も安心して生活出来る様にしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化した場合は、ご家族の方に状態を伝えて、病院や法人内他施設(特養等)の申し込みをして頂き、他施設へ繋げている。	看取りは行っていない。入居時に説明を行っており、重度化してきた時は、同法人内の施設や病院への入院等、空白の時間を作らないよう、安心して状況変化に対応できるよう支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	在宅学習会や緊急のマニュアルに沿って対応している。また、緊急時の行動・連絡手順を図表化し配布・掲示してシミュレーション・訓練をしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定避難訓練を行い、夜間想定時には消防署員や地域住民にも参加して頂き、協力体制を築いている。緊急連絡網には地域住民の方も入っている。	避難訓練では非常ベルが鳴っている事を想定して声出しをする等、消防署員からアドバイスを頂いている。近所のダムが氾濫した際は、同法人のデイサービスに避難する事になっており、実際にデイサービス等の職員が駆け付け訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で注意しながら、本人の主張・行動・希望を受け入れ、敬意をはらいその人らしい生活出来る様に、また言葉掛けに十分注意し支援している。	人生の先輩であり、気分を損ねないよう言葉使いには気を付けている。業務が忙しくなると頼まれた事に対し「ちょっと待って」と言いがちだが、待つてではなく今できる事を考えながら支援している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人に寄り添い、何でも気軽に話せるように配慮し、本人の希望等を引き出しながら自己決定出来る様に努めている。(食べ物・衣服・趣味等)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人一人に寄り添い、その人らしく生活出来る様に、また本人のペースに合わせ支援するように心がけている。また、コミュニケーションを図り希望や要望を引き出し、遠慮のない様に支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望で化粧や着替えをしている。入浴時や外出時には本人希望の衣服を選んで頂いたり、定期的に理髪店に来て頂き散髪して身だしなみを整えている。季節に合わせて衣服の入れ替えもやっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔ながらの郷土料理・だまっこ鍋・旬な野菜料理・山菜等を一緒に作って食べている。また誕生日等には希望メニューを献立に入れている。後片付けや食器拭きは進んで手伝って頂いている。	畑を作っており、きゅうりやトマト、ナス、ピーマン、ささぎや枝豆等を植え、草取りや収穫を楽しんでいる。また、もやしのひげ取りや、みず・筍の皮むき、枝豆の枝もぎ等一緒に行っている。食事が終わると、食器洗いをする人、洗った食器を拭く人等、利用者個々の力を生かしながら一緒に行っている。誕生日には本人の食べたい物、正月や冬至には行事食を作ったりしている。食事の献立は食事生活委員会で考え毎日食材を発注し、1日2回配達してもらっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量・水分量をチェックし、食事量が少ない時には栄養補助食品や好みの物を食べて頂いている。食事状態を見ながら量や食事形態を変更している。特に水分補給は勧める様にしている。むせやすい方にはトロミをつけ、事故の無いように努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行う方、介助の方も毎食後歯磨き・うがいをやっている。就寝前には義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、本人のペースを把握しながら時間誘導しトイレで排泄出来る様にしている。また、排泄の失敗が少ない方には紙パンツから綿パンツに変更しトイレでの排泄を促している。排便間隔を見て下剤を使用したりとスムーズな排泄を促している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けを行っている。失禁が続いた時は、排泄パターンの時間より早めに誘導する等の支援をしている。プライバシーに配慮し、声掛けに気を付けながら、自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べて頂いたり、牛乳や豆乳等その人にあった飲料に変えて提供している。また歩行運動や体操等を一緒に行って頂きスムーズに自然排便が出来る様に促している。一日1000mlを目標にしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は時間・曜日を決めて入浴をしている。個々の体調に合わせて無理の無いようにゆっくりと入浴をしている。	基本的には週3回の入浴を行っており、入浴を拒否する人には無理強いすることなく次の日に、別ユニットでの入浴に誘ったり、清拭で対応している。仲の良い人同士まとまって入浴したり、入浴剤を楽しんだり工夫している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースの合わせて、自室やホールソファ等で自由に休んで頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの用途用法説明書を内服薬ファイルへ個々に綴じて活用し、薬の作用・副作用を理解している。状態変化した場合は随時医療機関と連絡を取れる様にし、医師へ相談し通院にしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の生活、趣味等を聞いて入居後も続けられるようにして、楽しく生活出来る様にしている。(家事手伝い・裁縫・書道・畑仕事等)。ボランティアさんに訪問してもらい、本の読み聞かせ・大正琴サークルの演奏会を開いたりしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見・新緑狩・紅葉狩・秋田犬会館等ドライブに出掛けたり外食をしたりしている。随時、近隣散歩へ出掛けたり、定期的にご家族が自宅へ連れて行ってくれたり協力して頂いている。また、本人の希望があれば買い物へ出掛けている。	基本的にユニットごとに全員で外出している。その日に体調が悪い時には、別ユニットの外出時に一緒に行く等、全員が楽しめるように配慮している。日常的に散歩も行っており、近所の桜や紅葉等、季節感を楽しんでいる。散歩中には近所の方や、保育園児との交流もある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所預かりとしている。買い物は代行する事が多いが、希望があればいつでも持ち出せるようにしている。外出時にはいつでも使えるようにしている。			
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があれば、随時対応している。手紙もご家族から来たときには返信の手紙を出している。年2回絵手紙教室を開き、暑中見舞いと年賀状を作り、ご家族へコメントも添えて出している。			
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内掃除・消毒は毎日行い清潔に努めている。玄関やホールには季節を感じて頂けるように、毎月掲示物を変えたり季節の花を飾ったりしている。	加湿器や清浄機を使用したり、昼食後に毎日手すりをハイターで拭いたり、快適に過ごせる環境作りに努めている。毎月、利用者と職員と一緒に掲示物を作っており、訪問時は正月に書いた書初めが飾られていた。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや、廊下に畳席やイスを置き、自由にくつろいで頂けるようにしている。			
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた布団や衣装ケースを持参して頂き、また自宅にいた時とあまり環境を変えないようにして、入居しても安心して過ごして頂けるようにしている。家族写真や自分の好きな物を飾って、本人の好きな空間を作っている。	各居室にはベッドや加湿器、クローゼット、パネルヒーター、エアコンが完備されている。利用者にはそれぞれ、タンスやシルバーカー、ポータブルトイレ、布団、使い慣れた食器や衣類等を持って来て頂いている。趣味のお茶や習字のセットを持ち込み楽しむ方もおり、その人らしい居室となっている。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンスの整理が出来る様にネームを付けたり、ホーム内散歩したり出来る事は自分でして頂いている。場所に名前を付けたりと混乱しないようにしている。看板の設置・手すりの設置・廊下の途中に畳席やイスの設置をし休めるようにしている。			